

平成30年度「キャリア形成のための院生自主企画」実施報告書

提出:平成31年2月20日

① 企画の名称

社会で活用される確率統計とは～医療スペシャリストに学ぶ～

② 企画代表者の氏名・所属(学年)・連絡先

氏名	藤原由貴
所属・学年	人間文化研究科・数学専攻M2
連絡先	8088555061

③ 企画者の氏名・所属(学年)(代表者以外の協力者)

氏名	所属(学年)
江田茜	人間文化研究科・数学専攻M2
大西杏奈	人間文化研究科・数物科学専攻M1
新井美咲	人間文化研究科・数物科学専攻M1

④ 支援教員

氏名	所属
篠田正人	理学部数学科教授

⑤ 企画における講師(講演者)

氏名	所属(連絡先)
嘉田晃子	国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター臨床研究企画部管理部

⑥ 企画実施日・会場及び参加者

日時	2019/1/11
会場	C棟大講義室
参加人数	約28名 (講演者・企画者・協力者含む)
参加者の内訳	本学教職員 約4名 / 本学大学院生 約22名 他大学教職員 名 企業・団体職員 名 / その他 約2名

⑦ 企画についての概要報告

企画の形式	講義
企画の概要	
<p>申請者は、確率論や統計学を専攻し、データを扱う分野の勉強をしています。その中で医療統計という薬の安全性や有効性の証明に利用される学問を知り、興味を持ちました。さらに、現在の研究が実際の社会や仕事でどのように活かされているのかを実際に働いていらっしゃる方からお聞きできることは、将来の進路選択の参考になると考え、このセミナーを企画しました。</p> <p>今回のセミナーでは、本校の卒業生である名古屋医療センターの嘉田 晃子様を迎えて、医療の現場で統計学がいかに重要で、数学がどのように活用されているのかをお話いただき、本セミナーを通して、社会の中での数学の役割について理解を深めたいと考えています。</p> <p>数学の活躍の場を数学コースだけでなく、医療に興味を持っている学生など分野の垣根を越えて研究と社会の繋がりを感じていただき、自分の将来を考えるきっかけになればと思っています。そのために、幅広い方々への広報を行い参加者を集い、プロジェクターを用いた講義形式で行っていただきます。</p>	

⑧ 企画の成果報告

企画の成果(企画の目的の達成度に関する自己評価・その他企画の実施により得られた知見など)
<p>今回、この自主セミナーを開催した一番の目的は様々な学部の学部生や院生に数学が現実社会においてどのように活躍しているのかを知ってもらうことでした。医療と統計といとなかなか結びつくことが無い分野に思いがちですが今回のセミナーを通して、医療、健康などについての課題において、どのような研究計画をたてデータを収集するか、データをどのように解析するか、どのように解釈できるかを研究する統計学の一分野であることを学ぶことができました。数学の研究においてもなぜ、このような式が導き出せるのかなど常に疑問を持ち、与えられた課題に向き合う部分が大きく共通している点であると感じました。セミナーの内容としては私たちの専門からは離れている部分も多く存在しましたが、数学の重要性や活用性を存分に感じて頂けたと感じています。</p> <p>今回、セミナーを開催するにあたってキャリア開発支援の方々や本校の教職員の方々のご支援のおかげでとても有意義なセミナーとなりました。この場をかねてお礼申し上げます。</p>

⑨ 添付書類(■は必須、その他添付したものについては、□にチェック)

- ポスター、チラシなど事前の広報資料
- 参加者名簿(芳名録のコピーなど。参加者の氏名と所属(ないし居住地の市町村)の一覧でよい。)
- セミナー当日配布資料(ある場合は必須)
- セミナー講演者の映示資料のハードコピー(ある場合は必須)
- セミナーの録音・録画記録のメディア
- 参加者に対して行った意見徴収・アンケートなどの配布資料
- 参加者に対して行ったアンケート調査などの集計結果
- 新聞やミニコミ誌などに広報を行った場合その記事のコピー
- その他()